

熊本市 感染症発生動向調査 速報

現在の流行状況

感染性胃腸炎や腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう！

定点医療機関あたりの感染性胃腸炎の患者報告数は、6.31人(定点数16ヶ所、患者報告数101人)となり、前週(6.69人)より減少しました。一方、昨年同時期と比較して腸管出血性大腸菌感染症の報告が増えています。腸管出血性大腸菌感染症は例年、夏季に多く発生し、特に子供さんや高齢者の方は感染すると重症化しやすいと言われています。

腸管出血性大腸菌感染症について

【感染経路】

腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを摂取することによっておこる「食中毒」が主体で、ヒトからヒトへの2次感染もあります。

【症状】

多くの場合、3～5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛をとともなう頻回の水様便の後に、血便が見られます。発熱は軽度で、多くは37℃台です。症状は、無症状の方から重症の方まで様々です。発症者の6～7%に溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの重篤な合併症が起こります。

【予防のポイント】

～食中毒予防のために～

- ①調理の時には、こまめに手を洗いましょう。特に、生肉を扱った手はすぐに石鹸で洗いましょう。
- ②お肉は生で食べないようにしてください。必ずよく加熱してから食べましょう。
- ③お肉を焼くときの取り箸は食べるお箸とは別にして、口に入れないようにしましょう。
- ④生の肉を扱った調理器具は、洗って熱湯をかけたのち、別の調理に使うことが大切です。

～ヒトからヒトへの感染予防のために～

- ①トイレの後や食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- ②患者さんのお世話をする方は、使い捨て手袋を使うなどして下痢便に直接触れないようにしてください。
手袋をはずした後も十分に手を洗いましょう。
- ③下痢症状のあるときはプールの使用は控えましょう。

期 間		平成27年 第24週		平成27年 第25週	
		6/8～6/14		6/15～6/21	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	3	0.12	3	0.12
RSウイルス感染症	➡	0	0.00	1	0.06
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	6	0.38	2	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	21	1.31	19	1.19
感染性胃腸炎	流行中 ➡	107	6.69	101	6.31
水痘(みずぼうそう)	➡	4	0.25	2	0.13
手足口病	流行中 ➡	57	3.56	63	3.94
伝染性紅斑(りんご病)	➡	4	0.25	3	0.19
突発性発しん	➡	16	1.00	15	0.94
百日咳	➡	0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ	⬆	6	0.38	16	1.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	18	3.60	17	3.40
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	1	0.20	1	0.20
マイコプラズマ肺炎	➡	1	0.20	1	0.20
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00